

2021年度 日本工学院専門学校											
デザイン科 グラフィックデザイン専攻											
デザイン論2											
対象	1年次	開講期	後期	区分	必修	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	角田 知義			実務 経験	有	職種	ディレクター				
授業概要											
デザイン論1では「デザイン」と「アート」の違いを語ってきたが、本授業においては、基本的な概念として「美しさ」や「見る事への探求心」「意味をかたちづくる」「造形する技術」等、美術がデザインに影響を与えた部分を深く考察することを目的とする。											
到達目標											
世界四大文明が発祥した時点で美術は存在していた。我々が培って来た文明の中で美術の存在とその役割を知ることから、近代以降変容してきた美術の有り様とデザインへの影響、関わりを考察して行くことを目標とする。											
授業方法											
授業では教員の講義を聴講すると共に、テーマに沿った内容について映像を見て理解を深めていく。毎回授業最終に振り返りシートを記入して理解度合いを確認していく。											
成績評価方法											
試験・レポート 60% レポート・試験・課題を総合的に評価する ワーク 30% 授業内容の理解度を確認するために実施する 平常点 10% 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する											
履修上の注意											
必要な資料はその都度用意して配布していく。聴講内容に関してしっかりと記録すること。途中で理解度の確認として小テストを実施する。中間と最終にレポートを作成し提出していく。授業時数の4分の3以上出席しない者は課題提出と評価を受けることができない。											
教科書教材											
参考資料等は、授業中に配布する。											
回数	授業計画										
第1回	ガイダンス、デザインから見た美術、デザインとアートの関係、観察力										
第2回	西洋美術を学ぶための基礎知識、歴史と文明と価値観、イメージと実像										
第3回	抽象表現の直前、印象派から (世界の近代化と美術の役割)										
第4回	光との絵の関係 印象派、ポスト印象派、ジャポニスム、写真機、写真の存在										
第5回	新しい色との関係 フォービズム										
第6回	対象の捕らえかた キュビズム										

2021年度 日本工学院専門学校	
デザイン科 グラフィックデザイン専攻	
デザイン論2	
第7回	20世紀、新しい時代の表現 構成主義、未来派、シュールリアリズムほか
第8回	デザインとの接点 抽象表現とバウハウスと表現実験
第9回	古代美術から「美」の探求、美のルール作りを理解するには
第10回	構図と色彩と透視図法（美術を構成する要素と基準）、ルネサンスの時代
第11回	イコノロジー（絵を読み解く文法）、中世の美術を知る
第12回	狩野派の華麗さ、殿様のアート、日本の芸道、家元制度
第13回	葛飾北斎、庶民のメディア・アート、江戸時代の視覚伝達
第14回	江戸から明治へ、西洋美術との出会いと葛藤
第15回	ポップカルチャーとは何だったのか？アートとテクノロジーの越境